

公告
(参加意思確認公募)

独立行政法人国際協力機構筑波センター（JICA 筑波）が、2022-2024 年度に実施する予定の案件に関し、別紙のとおり、参加意思確認書の提出を招請します。

なお、本件公告に関する問い合わせは、JICA 筑波 研修業務課（電話：029 -838 -1744、担当：須田 真依子）宛にお願いします。

2022 年 12 月 28 日

独立行政法人国際協力機構
筑波センター 契約担当役
所長 睦好 絵美子

2022-2024 年度課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」の業務委託契約に係る参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構 筑波センター（以下「JICA 筑波」という。）は以下の業務について、別紙のとおり参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、開発途上国から研修員として日本に招いた、天水栽培での稲の栽培や、種子生産、品種選定に携わる中央または地方政府において研究職や技術職として従事する者に対して、それを実施するために必要な技術・能力の向上、所定の案件目標を達成するべく行う研修事業を実施するためのものです。

本業務の遂行にあたっては、一般社団法人海外農業開発協会（以下「特定者」という。）を契約の相手先として、JICA 所定の基準に基づき経費を積算したうえで契約を締結する予定です。

特定者は、過去連続して途上国を対象とした農業・農村開発に関する JICA 筑波所管の研修事業受注実績があり、研修事業を通じた人材育成の知見が集約されています。

その中でも、稲作技術に関して研修事業受注および本研修対象地域への専門家派遣の実績があります。特に 2015-2017 年度の本邦研修「陸稲栽培・種子生産及び品種選定技術」、2018-2020 年度「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」の研修業務委託契約を受託し、我が国では希少な陸稲・天水栽培技術に係る十分な知見を有しており、稲栽培、種子生産および品種選定に必要な講師を招請し、本研修業務を適切に実施することのできる機関といえます。

以下の「2 応募要件」を満たし、本件業務を適切に実施し得る要件を備えていますが、特定者以外の者で応募要件を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

1 業務内容

- (1) 業務名：2022-2024 年度課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コース業務委託契約。
- (2) 業務の目的：2022-2024 年度課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの実施。
- (3) 業務実施期間：2022 年度から 2024 年度まで、毎年度各 1 回（最大計 3 回）予定 2022 年度コースは次のとおり実施する。なお、2022 年度以降のコースについては、後日決定する。
- (4) 2022 年度 業務の実施方針及び留意事項：研修委託業務概要(別添)のとおり
- (5) 2022 年度 業務内容：研修委託業務概要（別添）のとおり
- (6) 2022 年度 履行期間：2023 年 3 月 12 日～2024 年 2 月 29 日

2 応募要件

(1) 基本的要件：

- ① 公示日において、令和 3・4・5 年度全省庁統一資格を有し、業種区分「役務の提供等」を保持し、「B」「C」または「D」の認定等級（格付）に格付けされている者。（以下「全省庁統一資格者」という。）

なお、全省庁統一資格保有者でない者で本業務の実施を希望する者は、当機

構における競争参加資格簡易審査を受けることができます。詳細は下記「3. 競争参加資格の確認等」をご確認ください。

② 一般契約事務取扱細則第4条第1項の規定に該当しない者。

具体的には、会社更正法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、参加意思確認書を提出する資格がありません。

③ 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」（平成20年10月1日規程（調）第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていない者。具体的には以下のとおり扱います。

- ・ 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。
- ・ 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受付けます。

④ 日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人である者。

⑤ 以下を要件のいずれにも該当しないこと、また、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約する者。

競争から反社会的勢力を排除するため、様式1「参加意思確認書」を提出しようとする者（以下、「提出者」という。）は、以下のいずれにも該当しないこと、および、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約して頂きます。具体的には、様式2「誓約書」の提出をもって、誓約したものとします。

なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加意思確認書を無効とします。

ア. 提出者の役員等（実施団体が個人である場合にはその者を、実施団体が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。）が、暴力団、暴力団員（暴力団員ではなくなったときから5年を経過していない者を含む。）、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）に規定するところにより、これらに準ずるもの又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。）である。

イ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。

ウ. 提出者又はその役員等が自己、当団体若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。

エ. 提出者又はその役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、若しくは便宜を供与するなど直接的又は積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、又は関与している。

オ. 提出者又はその役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。

カ. 提出者又はその役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。

キ. その他提出者が、東京都暴力団排除条例（平成 23 年東京都条例第 54 号）
又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

(2) その他の要件：

- ① 技術力に関する要件
本研修実施に十分な技術力を有すること。（A4 サイズ、1～2 枚程度の本コース実施プログラム案を添付のこと）
- ② 業務執行体制に関する要件
 - ア. 業務を統括するための業務総括者を選任し、機構担当職員と密接な連絡を保ちつつ、研修業務が円滑に進むような体制を構築すること。
 - イ. 過去海外或いは国内の別なく、当該分野における人材育成或いは研修事業の実績を有し、本業務の遂行に確実な履行体制を有していること。
- ③ 本研修委託業務契約は、2022 年度～2024 年度までに実施する計 3 回の研修コース全体を対象とする。しかしながら契約書については、3 回に分割して締結し、毎年 2 月頃から翌年 2 月末頃までを契約履行期間とする。なお、各契約書における契約金額等の条件は同一のものとするが、消費税の増税や研修内容の変更等が必要となった場合は、発注者・受注者で契約条件の変更について協議する。

3. 競争参加資格の確認等

本競争の参加希望者は、参加の意思及び上記 2. に掲げる応募要件を満たすことを証明するため、次に従い、契約担当役から競争参加資格の有無について確認を受けなければならない。なお、期限までに必要な書類を提出しない者及び競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができない。

* 提出書類について：各種フォーマットは下記（参考）にある URL から入手ください。

(1) 上記 2. (1) ①に該当する全省庁統一資格者である者

- ① 参加意思確認書（様式 1）
- ② 競争参加資格確認申請書
注：情報シートの提出は不要です。フォーマットの「本部契約担当役 理事」を「JICA 筑波センター契約担当役 所長」とし、「(国契-〇〇-〇〇〇)」は削除ください。
- ③ 全省庁統一資格審査結果通知書（写）
- ④ 誓約書（様式 2）

(2) 全省庁統一資格者でない者で、当機構による競争参加資格簡易審査を受けている者

- ① 参加意思確認書（様式 1）
- ② 競争参加資格確認申請書
注：情報シートの提出は不要です。フォーマットの「本部契約担当役 理事」を「JICA 筑波センター契約担当役 所長」とし、「(国契-〇〇-〇〇〇)」は削除ください。
- ③ 当機構競争参加資格簡易審査結果通知書（写）
- ④ 誓約書（様式 2）

(3) 全省庁統一資格者でないもので、当機構による競争参加資格簡易審査を受けていない者

- ① 参加意思確認書（様式 1）
- ② 簡易審査申請書（下記参考 URL から入手）
法人名、代表者役職名、代表者氏名、本店住所は登記事項証明書と同一の記載とすること。
- ③ 登記事項証明書（写）（発行日から 3 ヶ月以内のもの）
法務局にて発行の「履歴事項全部証明書」。
- ④ 財務諸表（写）（決算が確定した直近 1 ヶ年分のもの。法人名、決算期間が記載されていること）
貸借対照表、損益計算書を含む、法人名および決算期間が記載されているもの。設立して間もない法人で最初の決算を迎えていない場合は提出不要。
- ⑤ 納税証明書（その 3 の 3）（写）（発行日から 3 ヶ月以内のもの）
- ⑥ 誓約書（様式 2）

なお、提出された申請書を、競争参加資格の確認以外に申請者に無断で利用することはない。また、一旦提出された申請書等は返却しない。

（参考）競争参加資格確認申請書、簡易審査申請書

・ 国際協力機構ホームページ（<https://www.jica.go.jp/index.html>）

・ 競争参加資格確認申請書フォーマット

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/proposal.html>

・ 簡易審査申請書フォーマット

<https://www.jica.go.jp/announce/screening/index.html>

4 手続きのスケジュール

(1) 参加意思確認申請書の提出	提出期間	2023 年 1 月 20 日（金）午後 4 時まで
	提出場所	〒305-0074 茨城県つくば市高野台 3—6 （独）国際協力機構 筑波センター 研修業務課 電話 029 -838 -1744 担当：須田 真依子
	提出書類	上記 3. 競争参加資格の確認等 参照
	提出方法	持参又は郵送（書留としてください。）
(2) 審査結果の通知	通知日	2023 年 1 月 23 日（月）
	通知方法	郵送
(3) 応募要件無し の理由請求	請求期限	2023 年 1 月 27 日（金）午後 4 時まで
	請求場所	上記（1）提出場所と同じ
	請求方法	持参又は郵送（書留としてください。）
	回答予定日	2023 年 1 月 31 日（火）
	回答方法	郵送

5 その他

(1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等は無効とします。

- (2) 参加意思確認書等の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。
- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等を、参加意思確認書等の審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書の差替え及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。(上記4(3)を参照ください。)
- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名競争入札(総合評価落札方式)または指名による企画競争を行います。その場合の日時、場所等の詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して、別途連絡します。
- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。

担当部課：独立行政法人国際協力機構 筑波センター 研修業務課
電話 029-838-1744
須田 真依子 (Suda.Maiko@jica.go.jp)

以上

2023 年 月 日

参加意思確認書

独立行政法人 国際協力機構
筑波センター契約担当役
所長 睦好 絵美子 様

提出者 (所在地)
(貴社名)
(代表者役職氏名) 印

2022-2024 年度課題別研修「天水稻栽培・種子生産及び品種選定技術」
コースに係る参加意思確認公募について、応募要件を満たしており、業務
への参加を希望しますので参加意思確認書を提出します。

記

1 全省庁統一資格（令和 4・5・6 年度全省庁統一資格を有する場合）
登録番号：

2 添付資料（令和 4・5・6 年度全省庁統一資格を有していない場合）

（1）組織概要

※組織概要について記載すること（パンフレット等で代用できる場合は、パンフレットを添付すること）。

（2）登記事項証明書（写）（法務局発行の「履行事項全部証明書」、発行日から
3 ヶ月以内のもの）

（3）財務諸表（写）（申請日直前 1 年以内に確定した決算書類）（写）

（4）納税証明書（写）（その 3 の 3、発行日から 3 ヶ月以内のもの）

（2）その他の要件：

特定の資格、認証等が指定されている場合には、当該資格、認証等の取得状況がわかる証明書を提出してください。

以上

提出日： 年 月 日

誓 約 書

独立行政法人 国際協力機構
筑波センター
契約担当役 殿

2022-2024 年度課題別研修「天水稻栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの実施に係る競争参加資格の確認を受けるに際し、以下に記載の事項について誓約します。

なお、当該記載事項に係る誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、競争参加資格が無効となることに同意します。

住 所
法 人 名
法 人 番 号
役 職 名
代 表 者 氏 名

役職印

1 反社会的勢力の排除

競争から反社会的勢力を排除するため、以下のいずれにも該当しないこと。

- ア. 競争参加者又は役員等（実施団体が個人である場合にはその者を、実施団体が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。）が、暴力団、暴力団員（暴力団員ではなくなったときから5年を経過していない者を含む。）、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程(総)第25号）に規定するところにより、これらに準ずるもの又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- イ. 反社会的勢力が競争参加者の経営に実質的に関与している。
- ウ. 競争参加者又はその役員等が自己、競争参加者若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- エ. 競争参加者又はその役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、若しくは便宜を供与するなど直接的又は積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、又は関与している。
- オ. 競争参加者又はその役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- カ. 競争参加者又はその役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- キ. その他競争参加者が、東京都暴力団排除条例（平成23年東京都条例第54号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

2 個人情報及び特定個人情報等の保護

社として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成26年12月11日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等（※1）を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。

(中小規模事業者(※2)については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。)

- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

(※1) 特定個人情報等とは個人番号（マイナンバー）及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

(※2) 「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野（金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野）の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

以 上

2022 年度課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」に係る研修委託業務概要

1. 研修コース概要

(1) 研修コース名：2022 年度課題別研修「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」

(2) 研修目標及び単元目標

【研修実施の背景】

アフリカを中心とする発展途上国では、農業生産の低迷や人口増加による慢性的な食料不足が続いている。一方、生活形態の変化に伴い、コメの消費量は過去 20 年間に急激に増加しているが、コメを自給できる国は殆どなく、輸入に依存している。そのような状況の中、天水畑陸稲作の改善によるコメの増産が急務となっており、日本政府はネリカ品種の普及促進をアフリカ支援の具体的な貢献策として打ち出した。2008 年に開催された TICADIV では「今後 10 年間でアフリカのコメ生産量を倍増させる」ことを目標として掲げ、これを受けて JICA は「アフリカ緑の革命のための同盟」(AGRA) と共同で「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)」を立ち上げ、各国における国家稲作振興戦略の策定支援等に取り組んでいる。

我が国においては、陸稲の生産性は 2.5t/ha 程度であり、途上国の陸稲栽培の一般的水準である 1t/ha 程度と比べ高水準にある。これは、日本の体系化した品種改良・品種選定事業と、栽培技術、種子生産技術の改善に関する研究普及事業の成果である。これらの事業により、明治以来蓄積された技術・経験は、発展途上国の技術者に対する研修資源として有用である。また、茨城県は陸稲生産の中心地であり、近隣の研究機関や大学等には陸稲の栽培、種子生産、及び品種選定に関する知見が多く蓄積されている。

発展途上国では、とりわけ天水稲作における十分な知識と経験を持った研究普及人材が不足しており、人材の育成が喫緊の課題となっている。

【研修目標】

日本で学んだ稲の栽培技術、種子生産技術および品種選定技術を用いて、自国の天水稲作に関する課題へ

の対策を検討できる。

【単元目標】

1. 各国の稲栽培・種子生産・品種選定技術に関する現状と課題を把握し、説明できる。
2. 稲栽培の基本技術を習得する。
3. 稲の種子生産・種子保存に関する基本技術を習得する。
4. 稲の品種選定に関する基本技術を習得する。
5. 1. で把握した課題への対策について、検討できる。

(3) 業務（研修）実施方法

全てのプログラムは英語で実施する。原則として研修監理員は配置しないが、通訳が必要な場合は、JICAが研修監理員を配置する。

① 本邦プログラム

ア) 講義：

テキスト・レジュメ等を準備し、必要に応じて視聴覚教材を利用して、研修員の理解を高めるよう工夫する。

イ) 演習・実験／実習：

講義との関連性を重視し、テキストを参照しながら講義で学んだ内容の確認ができるようにすると共に、応用力も養えるように工夫し、帰国後の実務により役立つことを目指す。

ウ) 見学・研修旅行：

講義で得られた知見をもとに関係者との意見交換を通じて、事業実施において実践可能な知識・技術を習得できるように努める。

エ) レポート作成・発表：

以下に示す各レポートの作成・発表にあたっては、各研修員の問題意識について研修員・日本側関係者間で相互理解を深めるよう配慮し、あわせて帰国後の問題解決能力を高めるように指導する。なお、各レポートの狙いは以下の通り。

【インセプションレポート】

自国における稲の栽培・種子生産・品種選定技術に関する現状と課題を説明できる。

【実験計画】

インセプションレポートをはじめ、研修の初期段階で分析した天水稲作の課題への対策として行う、個別実験の計画が検討できる。

【個別実験レポート】

個別実験での学びが整理され、自国での対策の適用方法の検討が進む。

② 研修付帯プログラム（JICAが実施するプログラム）

ア) 集合ブリーフィング

来日時の事務手続き、滞在諸手当の支給手続き等についての説明を通常来日の翌日に、当方において計画し、実施する。

イ) ジェネラルオリエンテーション（日本文化理解）

日本の歴史や社会について概要を紹介し、研修員の日本文化理解を促進する。

ウ) プログラムオリエンテーション

技術研修に先立ち、コースの目的・日程・内容及び方法等につき、説明の上、周知徹底を図り、併せて研修員の要望等を徴取する。

エ) 評価会・閉講式

研修の修了に際し、研修全般の効果を確認し、また今後の研修改善の参考資料とするため、研修員から研修の内容、その他について意見を聴取する。また評価会実施後に、同研修場所にて閉講式を実施する。

(4) 業務対象となる研修員

① 定員：12名

- ② 研修対象国：タイ、ガーナ、リベリア、ナイジェリア、ウガンダ、タンザニア、ザンビア、アンゴラ、カメルーン、コンゴ共和国、セネガル、シエラレオネ
- ③ 対象組織：天水栽培での稲栽培や、種子生産、品種選定に携わる中央または地方政府機関
- ④ 対象研修員の資格要件
 - <職位> 上記対象組織の研究者及び技術者
 - <職務経験> 上記分野の職歴が3年以上の者。
 - <その他> 45歳以下。大学程度の教育を受けている者。
- (5) 研修受入期間：2023年3月12日から2023年11月25日まで
技術研修期間：2023年3月13日から2023年11月24日まで
- (6) 業務実施場所：JICA 筑波。視察先は茨城県及び近隣県のリソースを活用する。
- (7) 契約金額：機構が定める研修実施経費基準に基づき積算した見積書をもとに、契約交渉を経て決定する。

2. 業務の範囲及び内容

上記1.(2)の目的を達成するために、以下の業務を実施する。

【本邦プログラム】

研修実施全般に関する事項

- (1) 日程・研修カリキュラムの作成・調整
- (2) 研修実施に必要な経費の見積もり及び経費処理
- (3) 評価項目・評価基準の策定
- (4) JICA 筑波その他関係機関との連絡・調整
- (5) コースオリエンテーションの実施
- (6) 研修の実施・運営管理とモニタリング
- (7) 研修員の経験・知識レベルの把握（個別面接の実施等）
- (8) 各種発表会の実施（研修員が作成した発表資料データの取り付け・管理と配布資料の印刷等を含む）
- (9) 研修員作成の各種レポートの分析・評価
- (10) 研修員からの技術的質問への回答
- (11) 開・閉講式への出席、実施補佐
- (12) 評価会の出席、実施補佐
- (13) 反省会資料の作成、および反省会への出席
- (14) 講義、実験・実習、討議、見学等の評価・分析
- (15) 研修員への生活情報提供及び生活に係る助言・支援
- (16) 問題発生時の対応及びJICA、その他関係機関等への連絡と調整
- (17) 研修コースで使用した講義テキスト、レポート、実験・実習マニュアルのJICA 筑波への提出

- (18) JICA 筑波内の稲作分野関連施設・機材の適切な維持・管理および利用計画の作成（関連コースを受託する機関に所属する業務総括者との協力）なお、圃場管理については、別途圃場管理業務を受託したものが行う。
- (19) 稲作セクション会議（構成メンバーに、JICA 職員、他の稲作関連コース担当の業務総括者及び研修指導者、圃場管理業務を受託したものを含む）への出席
- (20) JICA 筑波が実施する農業関連行事への協力
- (21) インターンシップ実習生、国際協力理解講座受講者などの受入及び実習指導
- (22) 一般来訪者の施設見学、市民参加協力事業、国際協力理解、民間連携等 JICA 筑波が推進している業務への協力
- (23) 「国際協力機構筑波国際センター生産品事務取扱要領」、「国際協力機構筑波国際センターにおける種子等の保管・管理・配付要領」等に基づく生産品及び種子等の管理に必要な事項の報告

研修指導（講義、討議、実験・実習）の実施に関する事項

- (1) 具体的な講義・討議・実験・実習計画の策定、及びその実施
- (2) 講師の選定・確保
- (3) 講師への講義依頼文書の発出
- (4) 講義室及び使用資機材の確認
- (5) 講義テキスト、資機材、参考資料の手配、準備（印刷を含む）・確認
- (6) 教材の複製や翻訳についての適法利用等、教材利用許諾範囲の確認
- (7) 講義等実施時の講師への対応
- (8) 外部講師による講義の通訳（必要に応じ）
- (9) 講師謝金、旅費、交通費の支払い
- (10) 講師（又は所属先）への礼状の作成・送付

見学（研修旅行）の実施に関する事項

- (1) 見学先の選定・確保と見学依頼文書又は同行依頼文書の作成・送付
- (2) 見学先への引率
- (3) 外部講師による説明の通訳（必要に応じ）
- (4) 見学謝金、旅費、交通費等の支払い
- (5) 見学先への礼状の作成と送付

なお、本邦プログラムの技術研修期間に付随する事前準備・事後整理期間においては、上記業務に加えて次の業務を行う。

事前準備期間

- (1) インセプションレポートの提出促進及び研修員からの問い合わせに対する助言・指導
- (2) 研修員が構想する実験に関する計画案の作成支援
- (3) 研修評価項目・評価基準等について、JICA 筑波との調整・確認
- (4) 実験・実習に必要な資機材・圃場の準備

事後整理期間

- (1) 研修実施結果の評価・分析（単元目標・案件目標の達成度確認含む）と評価方法にかかると改善策の検討
- (2) 帰国研修員からの技術的質問等への対応
- (3) 業務進捗報告書、経費実績報告書の作成
- (4) 次年度の実験・実習に必要な資材の準備

【事後プログラム】

- (1) 研修員のファイナルレポート作成に係る助言指導・提出促進
- (2) ファイナルレポート検討会への出席
- (3) ファイナルレポートに関する助言指導結果の取りまとめ及び JICA 筑波への提出
- (4) 業務完了報告書（教材の著作権処理結果含む）、経費精算報告書の作成

3. 本業務に係る報告書の提出

本業務の報告書として、以下のとおり指定された期日までに提出するものとする。

報告対象期間	提出書類	提出期限
事前準備期間 2022 年度プログラム	業務進捗報告書 経費実績報告書	2023 年 3 月 31 日
2022 年度本邦プログラム	業務進捗報告書 経費実績報告書	2023 年 12 月 22 日
2022 年度事後プログラム 事後整理期間	業務完了報告書 (教材の著作権処理結果を含む) 経費精算報告書	2024 年 2 月 12 日

4. その他

JICA 筑波は、研修実施の運営にかかる通訳等の支援業務、ならびに教材・テキストの翻訳・製本、或いは研修員等の研修旅行の手配については、別途機構或いは機構が指定する業者を通じて行う。したがって、研修実施にあたっては、本業務受託者は必要に応じ、これら関連する団体等との調整を行うものとする。

以上